

九州ネットワーク研究会大分県開催「くとり天ラウンド」を開催しました。当初は、参集型の研究会を企画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、オンライン開催に急遽変更する形で開催しました。また、当日の朝に大分県では大きな地震があり、余震に注意しながらの研究会となりました。

今回のテーマは「豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する授業づくりについて」ということで、急遽ではありましたが、1つのトピックスと3本の実践報告をもとに協議をしました。

1 トピックス：「新学習指導要領の趣旨について」

○桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部 スポーツ教育学科 教授 佐藤 豊 氏
佐藤先生からは、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」について

- ①深い学びの要件→「系統的学習」+「経典的学習」
 - ②求められる知識とは、「ピックアイデア」「コアコンセプト」
 - ③アクティブラーニングの失敗事例の話
 - ④生徒主体から逆算して目標、内容を設定する教科マネジメントについて
 - ⑤5W1H (いつ・どこで・だれが・何を・なぜ・どのように) の大切さ
- といったお話がありました。改めて新学習指導要領の周知を図ることができました。



2 実践報告①：本県児童生徒の体力・運動能力の現状と課題

○大分県教育庁体育保健課 指導主事 今久保 和也 氏

今久保指導主事からは、大分県の令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の報告があり、大分県はコロナ禍でありながら、体力合計点に見る全国順位が過去最高の順位となり、小5男女、中2男女で九州1位ということでした。体育専科教員の熱心な取り組みという成果と、運動やスポーツに対する愛好度についての課題点の話がありました。授業改善と体力向上、運動スポーツの愛好度の好循環を築くために必要なことについて考えるきっかけとなる報告でした。



3 実践報告②：全ての子どもに運動の楽しさや喜びを味わわせ、自ら学ぶ力を育てる体育学習を目指して ～意欲的に動きを高めさせるための有効な指導と評価のあり方について～

○大分市立森岡小学校 教諭 石川 信太郎 氏

石川先生からは、4つの視点で実践発表を行った事例を、動画も見せながら発表していただきました。

- 視点1 教材のねらいをいかに絞り込むか
- 視点2 確かなめあてのもとせ方
- 視点3 3つの資質の向上につながる評価のあり方
- 視点4 3つの資質を高める工夫



本事例は、思考・判断・表現を育成する授業で、「宝運び鬼」を行っていました。めあてを「よい動きを見つけて友だちにつたえよう」とし、前時までの技能を見える化して、観察して見つけたことを伝え合う姿がとても印象的でした。また、活動時や話し合いの場面での音楽にもこだわりが見られ、楽しさや喜びいっぱいの授業となっていることが好印象でした。

4 実践報告③：中3バスケットボール授業におけるICT活用事例

○大分市立上野ヶ丘中学校 教諭 後藤 真一郎 氏

後藤先生は、急遽参加できることとなり、ICT活用事例の実践報告をしました。

- ①バスケットボールの補助運動メニューづくり
- ②バスケットボールの動きに付せんをつける
- ③振り返りを紙からタブレットへの打ち込みへ

という形で、バスケットボール授業の中にICTを効果的に取り入れている話がありました。

また、北海道の常呂中学校とオンラインで、体育理論の交流授業を行った事例も報告がありました。ICT活用でしか体験できないことを、効果的に授業に取り入れていることが先進的で、今後挑戦していくべきだと感じました。

国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割

- 0 導入 北海道常呂中学校 大分上野ヶ丘中学校
- 本時の目標の提示
- 5 初発の意見交流 (Googleフォーム)
- 10 常呂中の取り組み・・・カーリング (意見交流)
- 20 大分の取り組み・・・国際車椅子マラソン (意見交流)
- 30 交流
- 45 まとめ



5 終わりに

今回は本ネットワークがこれまでに築いてきたものを、「学びを止めないこと」で継続できたと感じています。今後も実践を積み重ね、学び続ける姿勢を大切にしたいと思います。参加した方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。